

CASBEE®熊本《新築》【性能表示】

■ 建物概要				■ 外観	
建物名称	そよ風の里ほたる	階数	平屋		
建設地	熊本県上益城郡山都町今322-1	構造	木造		
用途地域	都市計画区域外	平均居住人員	100 人		
気候区分	地域区分Ⅳ	年間使用時間	8,760 時間/年		
建物用途	病院	評価の段階	実施設計段階評価		
竣工年	2012年3月 予定	評価の実施日	2011年9月26日		
敷地面積	9,400 m ²	作成者			
延床面積	2,067 m ²	確認日			
		確認者			

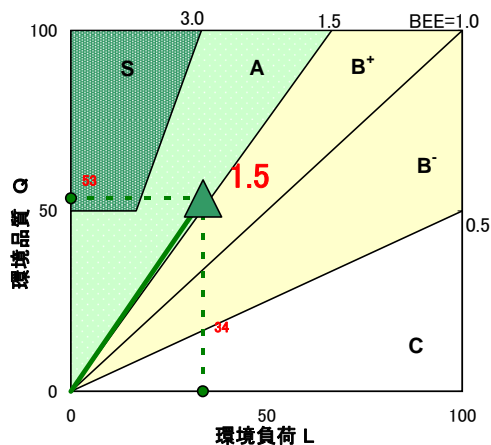
1 CASBEE評価結果

■ 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)



BEE = 1.5

■ BEE(環境効率) = $\frac{Q \text{ (環境品質)}}{L \text{ (環境負荷)}}$



■ 環境効率評価基準

ランク	ランク表示	評価	判定値	
			BEE値	Q値
S	★★★★★	素晴らしい	3.0以上	50以上
A	★★★★	大変良い	1.5以上3.0未満	—
E ⁺	★★★	良い	1.0以上1.5未満	—
E ⁻	★★	やや劣る	0.5以上1.0未満	—
C	★	劣る	0.5未満	—

■ ライフサイクルCO₂排出性能評価基準

判定値(排出率)	ランク表示
3C%以下	☆☆☆☆☆
3C%超6C%以下	☆☆☆☆
6C%超8C%以下	☆☆☆
8C%超100%以下	☆☆
100%超	☆

■ ライフサイクルCO₂排出性能(ランク表示)



排出率

67%

2 熊本県重点評価結果

■ 重点事項総合評価



評価点

85

評価点

【重点事項1】 温室効果ガス排出量削減の推進

96.3

【重点事項2】 安全安心で暮らしやすい社会の実現

67.5

【重点事項3】 県の地域資源の有効活用と保全

80.0

【重点事項4】 循環型社会の実現

84.7

■ 熊本県重点評価基準

判定値(評価点)	ランク表示
100点以上	★★★★★
80点以上100点未満	★★★★
60点以上80点未満	★★★
40点以上60点未満	★★
40点未満	★

※評価点は、100点以上が推奨です。

CASBEE[®]熊本《新築》【評価結果】

■使用評価マニュアル：CASBEE-新築（簡易版）2010年版 使用評価ソフト：CASBEE-NCb_2010(v.1.3)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	そよ風の里ほたる	階数	平屋
建設地	熊本県上益城郡山都町今322-1	構造	木造
用途地域	都市計画区域外	平均居住人員	100 人
気候区分	地域区分Ⅳ	年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	病院	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2012年3月 予定	評価の実施日	2011年9月26日
敷地面積	9,400 m ²	作成者	
建築面積	2,136 m ²	確認日	
延床面積	2,067 m ²	確認者	



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.5 ★★★★★☆

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B-: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

☆★★★★☆

標準計算

①参照値	100%
②建築物の取組み	67%
③上記+②以外のオンサイト手法	67%
④上記+オフサイト手法	67%

(kg-CO₂/年・m²)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物（参照値）と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Q のスコア = 3.1

Q1 室内環境 Q1のスコア = 3.1

音環境	2.5
光・視環境	3.0
熱環境	3.4
空気環境	3.4

Q2 サービス性能 Q2のスコア = 3.1

機能性	3.3
耐用性・信頼性	3.0
対応性・更新性	3.1

Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア = 3.1

生物環境	2.0
まちなみ・景観	4.0
地域性・アメニティ	3.0

LR 環境負荷低減性 LR のスコア = 3.6

LR1 エネルギー LR1のスコア = 4.2

建物の熱負荷	4.7
自然エネルギー	3.5
設備システム効率化	5.0
効率的運用	3.0

LR2 資源・マテリアル LR2のスコア = 3.2

水資源保護	3.0
非再生材料の使用削減	3.3
汚染物質回避	3.2

LR3 敷地外環境 LR3のスコア = 3.2

地球温暖化への配慮	4.3
地域環境への配慮	2.5
周辺環境への配慮	3.0

3 熊本県重点評価結果

重点事項総合評価

評価点 = 85

重点事項1: 温室効果ガス排出量削減の推進 評価点 = 96	重点事項2: 安全安心で暮らしやすい社会の実現 評価点 = 68
重点事項3: 県の地域資源の有効活用と保全 評価点 = 80	重点事項4: 循環型社会の実現 評価点 = 85

重点事項の評価(レーダーチャート)

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生涯の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される
 ■LCCO₂の算定条件等については、「LCCO₂算定条件シート」を参照された

CASBEE®熊本《新築》【配慮事項】

4 設計上の配慮事項

総合

- ・平屋にて計画することで利用しやすく分かりやすい施設。
- ・中庭を適度に配置し住環境に配慮した計画。

Q1 室内環境

- ・廊下と居間の間はボードにて小屋裏まで貼り上げている。
- ・内装材はF☆☆☆☆の材料を使用する。
- ・居室の換気は床面積の1/14以上確保している。

Q2 サービス性能

- ・金属屋根材は耐久性に優れた材料を使用している。
- ・各部屋からは二方向避難を確保し、バリアフリーも満たしている。
- ・構造計算を行わない小規模木造建築物と違い、構造計算を行っている。

Q3 室外環境（敷地内）

- ・緑地を多く舗装を少なくし、敷地内温熱環境の向上に努めている。
- ・周辺の景観になじむ形態や色彩としている。

LR1 エネルギー

- ・吹抜けを有する部屋は中庭に対して開口部を設け、採光や通風に配慮している。
- ・将来的には太陽光発電を設置する予定。

LR2 資源・マテリアル

- ・リサイクル材を積極的に採用する。
- ・県産の木材を使用する。
- ・再生リサイクル可能な仕上材を選定している。

LR3 敷地外環境

- ・緑地を多くすることで、熱的な影響の低減をはかる。

その他

CASBEE-新築(簡易版)2010年版
そよ風の里ほたる

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル CASBEE-新築(簡易版)2010年版

■評価ソフト: CASBEE-NCb_2010(v.1.3)

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数			
Q 建築物の環境品質								3.1
Q1 室内環境								3.1
1 音環境		2.6	0.15	2.3	1.00			2.5
1.1 騒音		3.0	0.40	3.0	0.40			
1 室内騒音レベル		3.0	1.00	3.0	1.00			
2 設備騒音対策		-	-	-	-			
1.2 遮音		3.0	0.40	2.4	0.40			
1 開口部遮音性能		3.0	1.00	3.0	0.30			
2 界壁遮音性能		-	-	1.0	0.30			
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		3.0	-	3.0	0.20			
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		3.0	-	3.0	0.20			
1.3 吸音		1.0	0.20	1.0	0.20			
2 温熱環境		3.0	0.35	3.0	1.00			3.0
2.1 室温制御		3.0	0.50	3.0	0.50			
1 室温		3.0	0.38	3.0	0.57			
2 負荷変動・過渡制御性		-	-	-	-			
3 外皮性能		3.0	0.25	3.0	0.43			
4 ゾーン別制御性		3.0	0.38	-	-			
5 温度・湿度制御		-	-	-	-			
6 種別制御		-	-	-	-			
7 時間外空調に対する配慮		-	-	-	-			
8 監視システム		-	-	-	-			
2.2 湿度制御		3.0	0.20	3.0	0.20			
2.3 空調方式		3.0	0.30	3.0	0.30			
3 光・視環境		3.1	0.25	3.8	1.00			3.4
3.1 昼光利用		3.6	0.30	4.2	0.30			
1 昼光率	共用部:2.4%、居室:1.8%	4.0	0.60	5.0	0.60			
2 方位別開口		-	-	3.0	-			
3 昼光利用設備		3.0	0.40	3.0	0.40			
3.2 グレア対策		3.0	0.30	3.0	0.30			
1 照明器具のグレア		-	-	-	-			
2 昼光制御		3.0	1.00	3.0	1.00			
3 眩り込み対策		-	-	-	-			
3.3 照度		3.0	0.15	3.0	0.15			
3.4 照明制御		3.0	0.25	5.0	0.25			
4 空気質環境		3.2	0.25	3.7	1.00			3.4
4.1 発生源対策		4.0	0.50	4.0	0.63			
1 化学汚染物質	ほぼ全面的にF☆☆☆☆の材料を使用。	4.0	1.00	4.0	1.00			
2 アスベスト対策		-	-	-	-			
3 ダニ・カビ等		-	-	-	-			
4 レジオネラ対策		-	-	-	-			
4.2 換気		2.0	0.30	3.3	0.38			
1 換気量		3.0	0.50	3.0	0.33			
2 自然換気性能		3.0	-	4.0	0.33			
3 取り入れ外気への配慮		1.0	0.50	3.0	0.33			
4 給気計画		-	-	-	-			
4.3 運用管理		3.0	0.20	-	-			
1 CO ₂ の監視		3.0	-	-	-			
2 喫煙の制御		3.0	1.00	-	-			
Q2 サービス性能		-	0.30	-	-			3.1
1 機能性		2.8	0.40	4.0	1.00			3.3
1.1 機能性・使いやすさ		3.0	0.40	5.0	0.60			
1 広さ・収納性		3.0	-	5.0	1.00			
2 高度情報通信設備対応		3.0	-	3.0	-			
3 バリアフリー計画		3.0	1.00	-	-			
1.2 心理性・快適性		1.0	0.30	2.5	0.40			
1 広さ感・景観		3.0	-	4.0	0.50			
2 リフレッシュスペース		3.0	-	-	-			
3 内装計画		1.0	1.00	1.0	0.50			
1.3 維持管理		4.5	0.30	-	-			
1 維持管理に配慮した設計	床材は防汚性の高い塩ビシート。壁は防汚性の高いビニルクロス	5.0	0.50	-	-			
2 維持管理用機能の確保	各フロアに掃除用流しの設置など。	4.0	0.50	-	-			
3 衛生管理業務		-	-	-	-			
2 耐用性・信頼性		3.0	0.31	-	-			3.0
2.1 耐震・免震		3.0	0.48	-	-			
1 耐震性		3.0	0.80	-	-			
2 免震・制振性能		3.0	0.20	-	-			
2.2 部品・部材の耐用年数		3.1	0.33	-	-			
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.23	-	-			
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		3.0	0.23	-	-			
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		3.0	0.09	-	-			
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.08	-	-			
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	VP管の採用	4.0	0.15	-	-			
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.23	-	-			

2.3 適切な更新						
2.4 信頼性			3.0	0.19	-	-
1	空調・換気設備		3.0	0.20	-	-
2	給排水・衛生設備		3.0	0.20	-	-
3	電気設備		3.0	0.20	-	-
4	機械・配管支持方法		3.0	0.20	-	-
5	通信・情報設備		3.0	0.20	-	-
3 対応性・更新性			3.7	0.29	2.2	1.00
3.1 空間のゆとり			4.6	0.31	1.4	0.50
1	階高のゆとり	共用部は階高3.9m以上	5.0	0.60	1.0	0.60
2	空間の形状・自由さ	共用部壁長さ比率:0.2	4.0	0.40	2.0	0.40
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.31	3.0	0.50
3.3 設備の更新性			3.6	0.38	-	-
1	空調配管の更新性	仕上材を傷めず更新・修理可能	4.0	0.17	-	-
2	給排水管の更新性		3.0	0.17	-	-
3	電気配線の更新性	仕上材を傷めず更新・修理可能	5.0	0.11	-	-
4	通信配線の更新性	仕上材を傷めず更新・修理可能	5.0	0.11	-	-
5	設備機器の更新性		3.0	0.22	-	-
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.22	-	-
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-
1 生物環境の保全と創出			2.0	0.30	-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮		植栽を行い、周辺の景観に調和する計画。	4.0	0.40	-	4.0
3 地域性・アメニティへの配慮			3.0	0.30	-	3.0
3.1	地域性への配慮、快適性の向上		3.0	0.50	-	-
3.2	敷地内温熱環境の向上		3.0	0.50	-	-
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	3.6
LR1 エネルギー			-	0.40	-	4.2
1 建物の熱負荷抑制		285.9MJ/(m ² ・年)【判断基準:408.0】	4.7	0.30	-	4.7
2 自然エネルギー利用			3.5	0.20	-	3.5
2.1	自然エネルギーの直接利用	ハイサイドライド	4.0	0.50	-	-
2.2	自然エネルギーの変換利用		3.0	0.50	-	-
3 設備システムの高効率化		高効率照明器具の採用など	5.0	0.30	-	5.0
集合住宅以外の評価(ERRIによる評価)		ERR=41%	5.0	-	-	-
集合住宅の評価			3.6	-	-	-
4 効率的運用			3.0	0.20	-	3.0
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-
4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	3.2
1 水資源保護			3.0	0.15	-	3.0
1.1 節水			3.0	0.40	-	-
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.67	-	-
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.33	-	-
2 非再生性資源の使用量削減			3.3	0.63	-	3.3
2.1	材料使用量の削減		2.0	0.07	-	-
2.2	既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.24	-	-
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	3.0	0.20	-	-
2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用	再生路盤材の利用、木質系デッキ材	4.0	0.20	-	-
2.5	持続可能な森林から産出された木材		3.0	0.05	-	-
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	木造のため、躯体と仕上が容易に分離可能。	4.0	0.24	-	-
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.2	0.22	-	3.2
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.32	-	-
3.2 フロン・ハロンの回避			3.3	0.68	-	-
1	消火剤		2.0	0.33	-	-
2	発泡剤(断熱材等)	発泡断熱材は使用していない。	5.0	0.33	-	-
3	冷媒		3.0	0.33	-	-
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	3.2
1 地球温暖化への配慮		大気汚染に関する法・条例の現行の排出基準以下とする。	4.3	0.33	-	4.3
2 地域環境への配慮			2.5	0.33	-	2.5
2.1 大気汚染防止			3.0	0.25	-	-
2.2 温熱環境悪化の改善			2.0	0.50	-	-
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.0	0.25	-	-
1	雨水排水負荷低減		-	-	-	-
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.33	-	-
3	交通負荷抑制		3.0	0.33	-	-
4	廃棄物処理負荷抑制		3.0	0.33	-	-
3 周辺環境への配慮			3.0	0.33	-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-
1	騒音		3.0	0.33	-	-
2	振動		3.0	0.33	-	-
3	悪臭		3.0	0.33	-	-
3.2 風害・砂塵・日照阻害の抑制			3.0	0.40	-	-
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-
2	砂塵の抑制		3.0	-	-	-
3	日照阻害の抑制		3.0	0.30	-	-
3.3 光害の抑制			3.0	0.20	-	-
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		3.0	0.70	-	-
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-

熊本市重点評価結果スコアシート

実施設計段階

建物名称 **そよ風の里ほたる**

■評価ソフト: CASBEE-Ncb_2010(v1.3)_kmt2011(v1.0)

■使用評価マニュアル: CASBEE熊本《新築》2011年版

★熊本市重点評価結果				総合評価点		85.0
重点事項				評価点	重点事項 重み係数	評価配点
重点項目(配慮項目)		スコア	重み 係数			
① 温室効果ガス排出量削減の推進				96.3	0.40	38.52
Q1-2.1.3	外皮性能	3.0	0.05			
Q1-3.1.3	昼光利用設備	3.0	0.05			
Q1-3.2.2	昼光制御	3.0	0.05			
LR1-1	建物の熱負荷抑制	4.7	0.15			
LR1-2	自然エネルギー利用	3.5	0.20			
LR1-3	設備システムの高効率化	5.0	0.30			
LR2-2.1	材料使用量の削減	2.0	0.10			
LR3-2.3.3	交通負荷抑制	3.0	0.10			
② 安全安心で暮らしやすい社会の実現				67.5	0.20	13.50
Q2-1.1.3	バリアフリー計画	3.0	0.25			
Q2-2.1.1	耐震性	3.0	0.25			
Q3-1	生物環境の保全と創出	2.0	0.15			
Q3-3	地域性・アメニティへの配慮	3.0	0.20			
LR3-2.2	温熱環境悪化の改善	2.0	0.15			
③ 県の地域資源の有効活用と保全				80	0.20	16.00
Q3-2	まちなみ・景観への配慮	4.0	0.20			
LR2-1.1	節水	3.0	0.30			
LR2-1.2.1	雨水利用システム導入	3.0	0.20			
LR2-2.5	持続可能な森林から産出された木材	3.0	0.30			
④ 循環型社会の実現				84.7	0.20	16.94
Q2-2.2	部品・部材の耐用年数	3.1	0.30			
Q2-3	対応性・更新性	3.7	0.30			
LR2-2.2	既存建築躯体等の継続使用	3.0	0.10			
LR2-2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	3.0	0.15			
LR2-2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用	4.0	0.15			

■評価点算出式

評価点は、以下の方法により算出しています。

◆総合評価結果

総合評価点 = (各重点事項の評価点 × 各重点事項の重み係数) の総和
 ※重み係数の総和は、「1」であること。

◆各重点事項(①～④の項目)

評価点 = (各重点項目のスコア × 各重点項目の重み係数) の総和 × (5/4) × 20
 ※重み係数の総和は、「1」であること。

※(5/4) × 20 : スコア4点を評価点100点に変換するスケーリング定数